市議会6月定例会

行政報告

市議会６月定例会が６月４日に招集され、小畑市長が行政報告を行いました。その中から、主なものの要旨をお知らせします。

空き公共施設等利活用促進条例に基づく事業者の指定状況

空き公共施設の利活用については、条例適用第1号施設として旧白沢通園センターを2月26日から3月7日まで公募したところ、食品加工卸売の株式会社東北センバから応募があり、審査を経て事業者に指定しました。

同社は、4月からこの施設で冷凍とろろ芋の原料となる長芋などの皮むき業務を開始しており、地元矢立地区から正社員1人、作業従事者21人を雇用するなど、地区の雇用の拡大に寄与していただいています。

また、旧葛原保育所を5月13日から22日まで公募したところ、秋田比内や株式会社から応募があり、審査を経て事業者に指定しました。

同社では業務拡張に伴い、現在鹿角市にある従業員41人の本社及び工場を移転し、新たに2人を雇用するもので、事業開始は増改築工事後の12月10日ごろとし、直営店や姉妹店向けに比内地鶏の加工や地場産食材を活用した新商品の開発・製造を行う予定です。

今後も、地域の活性化や雇用の拡大に向け、空き公共施設の利活用を積極的に進めていきます。

旧葛原保育所

雪害による人的被害状況

この冬も昨年同様の大雪と低温に見舞われたことから、雪の処理に関する市民の皆さんからの相談や問い合わせに対応し、広報やホームページ、報道機関を通じて雪害に対する注意喚起を行ってきました。

また、2月22日には災害警戒対策室を設置し、雪害防止に向け、継続的な安全対策に努めましたが、本市における雪害状況は、人的被害が雪下ろし中の転落等による死者3人、負傷者18人、建物関係では住宅等の損壊が25件、農業関係ではパイプハウス等の倒壊15棟となっており、大変な状況と受け止めています。

来シーズンについても、緊急メールやツイッター等による事故防止の呼び掛けや年明けから消防本部で実施してきた「雪下ろし講習会」を実施するとともに、消防団や自主防災組織の御協力もいただきながら、雪による事故防止を徹底したいと考えています。

農作物の生育状況等

今年は、雪解けの遅れと4月中旬以降の低温により、農作業は平年より5日ほど遅れましたが、5月中旬に天候が回復したことから、3日程度の遅れとなりました。

基幹作物である水稲は、平年より4日程度遅れて種まき作業が始まり、4月20日が盛期となりました。4月中旬以降、気温が低く日照時間が少なかったことから、出芽に不揃いが見られ、生育も平年に比べ遅れています。

また、5月に入り降雨が続き、圃場（ほじょう）が乾きにくかったことから、耕起作業、田植作業とも平年より3日程度の遅れとなりました。

野菜については、山の芋は平年より3日程度遅れて5月10日頃から定植作業が始まりましたが、平年どおり6月上旬までに終了する見込みです。また、アスパラガスは、低温の影響から平年より5日程度遅れ、5月12日から収穫が始まっていますが、6月上旬までには終了する見込みです。

「果樹」は、ナシ、リンゴとも発芽期はほぼ平年並みでしたが、その後の低温の影響から、ナシは5月15日、リンゴは5月20日から開花が始まり、8日から9日程度の遅れとなりました。

今後は、気象変動に対応した農作物の管理を徹底するよう注意喚起に努めます。

エコ・アクション・ポイント事業の取り組み状況

平成24年6月から25年3月まで「大館市エコ・アクション・ポイント事業」を実施し、市民のエコ・アクション活動を支援しました。

この事業は、取扱店での地場産の農産物や温室効果ガス排出削減に貢献する商品の購入などに対しポイントを交付し、そのポイントを商品券などに交換できるものです。また事業の運用に当たっては、市有林の育成活動で得られた二酸化炭素吸収量のオフセット・クレジット制度での売却益の一部を財源としています。

昨年度は、2131枚のポイントシートを回収、6万5718キログラムの二酸化炭素削減効果が実証され、参加いただいた市民には105万円相当を還元しました。

今年度は、更に多くのかたに参加していただけるよう取扱店や対象メニューを拡大し、7月1日から事業を開始したいと考えています。